

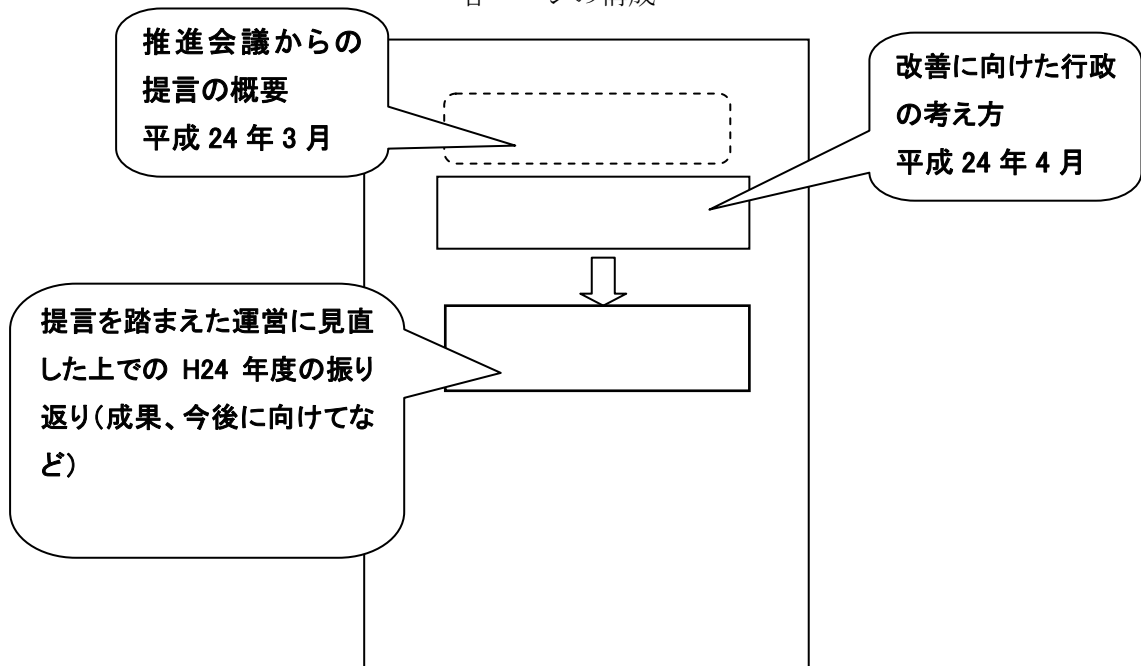
平成24年度 「高浜市の未来を創る市民会議」を振り返って (事務局による総括)

平成23年3月、第6次高浜市総合計画推進会議から、「高浜市の未来を創る市民会議」運営の方向性についての提言をいただき、平成24年度は、その提言の内容に沿って見直しを加えながら市民会議の運営を進めてきました。中でも、分科会重視の進行や、柔軟な分科会運営は、参加者の満足度を十分に高めたと思われま

す。
1年間を終えようとしている今、事務局の視点で今年度の市民会議を振り返り、運営の見直しの成果の検証と今後に向けての課題をまとめました。



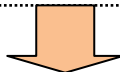
各ページの構成



【提言による見直しの成果】

(提言1. 分科会重視の運営)

- ・全体会の回数は必要最小限とし、分科会活動に重点を置き、テーマについてじっくりと時間をかけて検討を行いたい。



(改善に向けた行政の考え方 H24.4)

- ・全体会の回数は必要最小限(実質4回程度)とし、分科会活動に重点を置いたスケジュールを組む。



【H24 開催実績】

- ・全体会は3月までで6回(内3回は分科会と同時開催、実質4.5回)
- ・分科会は1月までで全分科会の合計65回、月平均6.5回、1分科会あたり月平均1回弱

○(テーマ検討の充実)

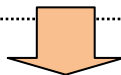
分科会に重点を置いたことから、じっくりと取り組みテーマを検討することができ、参加メンバーの充実感が高まった。

○(チームワークの向上)

分科会メインであるからこそ全体会での「発表」の際には、リーダー以外のメンバーや新規メンバーが発表役になるなど「みんなで作り上げる市民会議」という雰囲気が高まった。

(提言2. 分科会の編成)

- ・発言回数などを考え、適正な人数の編成に。
- ・「教育・子ども分科会」を「生涯学習分科会」と「教育・子ども分科会」の2つに分割しては。



(改善に向けた行政の考え方 H24.4)

- ・「教育・子ども分科会」を「生涯学習分科会」「学校教育分科会」の2つに分ける。
- ・1分科会あたりの人数は10~15人程度を目安とする。

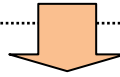


○(適正な人数編成)

分科会の編成を見直し「生涯学習分科会」「学校教育分科会」の2つに分けるなど、適正な人数編成により話し合いを充実させることができた。

(提言3. 柔軟な分科会運営 連携、小チームの設置など)

- ・必要に応じて、適宜、連携ができるよう、各分科会の自主性・主体性に任せた、自由度の高い運営を。
- ・必要に応じて、分科会の中に複数のチームを設けるなどの柔軟な運営ができないか。



(改善に向けた行政の考え方 H24.4)

- ・分科会同士の連携等は、関係分科会の職員メンバー同士が協議・調整を行う。
- ・分科会内の小チームの設置は、各分科会の自主性に委ねる。

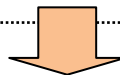


○ (小チームによるテーマの充実)

「防犯・防災分科会」では防犯と防災の 2 チームに分けたことで、テーマに応じた取り組みが進んだ。 また、「財政分科会」では上期のテーマを2種設けて 2 チームに分かれ、テーマ検討を深めた。

(提言4. 実行テーマの明確化)

- ・市民が 意見・アイデアを出しやすい具体的なテーマを設定していただきたい。
- ・「高浜市の未来を創る市民会議」の位置づけや役割をしっかりと認識し、実行テーマに沿った運営をしていただきたい。



(改善に向けた行政の考え方 H24.4)

- ・「アクションプランの実行」にあたっては、意見・アイデアの出しやすい具体的なテーマを設定する。
- ・総合計画の「点検・確認」「実行」以外のテーマを扱う場合は、別プロジェクトを立ち上げて行う。

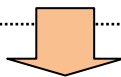


○ (テーマに沿った運営)

テーマ設定に配慮した結果、アイデアが出しやすくなり、取り組みが活発になった。

(提言5. 参画意識を高める工夫)

- ・分科会では、出席者全員が発言できるように、意見を引き出すとりまわしや、楽しく話し合える雰囲気づくりを心がけていただきたい。



(改善に向けた行政の考え方 H24.4)

- ・話しやすい雰囲気づくりを行う。
- ・全員発言ができるような取り回しの工夫。

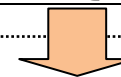


○ (参画意識の高まり)

全員が発言できるように分科会全体で配慮した結果、全員で話し合う雰囲気が生まれて会議が充実し、参加者の満足度が高まった。懇親会なども各分科会で開催され、市民メンバーと職員メンバーの距離が縮まり一層チームワークも育まれた。

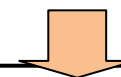
(提言6. 職員の意識・姿勢)

- ・職員はどのように総合計画を達成しようとしているのか、その想いや気持ちが十分に伝わるように、会議に臨んでいただきたい。また、市民リーダーとの事前打合せも十分に行っていただきたい。
- ・テーマが自分の仕事とは直接関係のない場合でも、分科会の構成メンバーとして、総合計画の実現に向けて、積極的に発言していただきたい。



(改善に向けた行政の考え方 H24.4)

- ・テーマが、自分の仕事とは直接関係がない場合も、総合計画の実現(基本計画に掲げた目標の達成)に向けて、積極的な姿勢で参画する。
- ・総合計画の実現にあたっては、市民との相互理解・信頼関係が不可欠である。どのように総合計画の目標を達成しようと考えているのか、行政としての想いが十分に伝わるように、会議に臨む。
- ・分科会の運営にあたっては、市民リーダーとの事前打合せを十分に行う。
- ・分科会職員リーダーは、職員メンバー全員が力を合わせて分科会を運営するという姿勢で臨む。

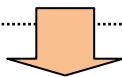


○ (発言機会の増)

- ・説明の機会、事業に対する思いの表明をする機会を増やし、行政としての想いをわかりやすく伝える姿勢を強めるため推進会議に分科会職員リーダーも出席することとした。
- ・分科会職員リーダーは市民リーダーとの事前調整に努め、信頼関係を築く努力をしている。また分科会は全員発言のため、その他の職員メンバーも自分の業務以外の分野でも関心をもってあたろうとしている。

(提言7. メンバー編成について)

- ・ 分科会を編成する際は、市民リーダーと協議し、多様な意見が反映できるメンバー構成となるよう取り組んでいただきたい。



(改善に向けた行政の考え方 H24.4)

- ・ 女性や若い世代にも参画していただけるよう、配慮して呼びかけを行う。
- ・ 関係部署において参画メンバーを積極的に掘り起こしていく。



○ (多様な視点からの参画)

職員リーダーが主体となって、分科会の取り組みにふさわしい視点を取り入れるべく、女性や育児中の世代に積極的に働きかけた。新しいメンバーの参入により、新鮮かつ現実的な意見を得られるようになっている。

(提言8. 市民会議のあり方について)

- ・ 高浜市の未来を創る市民会議は、高浜市にとって初めての試みであるので、市民会議自体も市民とともに創り上げていくという姿勢で臨んでいただきたい。



(改善に向けた行政の考え方 H24.4)

提言を踏まえ、常に市民会議のあり方を見直しつつ、運営をしていく。



○ (より良い市民会議を目指す)

引き続きアンケートなどを取りながら、より良い会議になるよう努力を続ける。



【市民会議の目的・効果の検証】

①市民のみなさんにとってより望ましい事業を展開できるようになったか？

(PDCAサイクル)

- ・今年度から施策評価が始まり、昨年度の取り組み内容・成果、今後の課題・方向性、改善のアイデア等について、行政としての想いをしっかりと述べ、それに対して市民目線のご意見をいただくという一定のPDCAサイクルが回り始めた。

(意見の反映)

- ・活発な意見交換を経て、市民の皆さんの意見をアクションプランや日頃の施策に活かしている。

②行政活動に一定の緊張感を保つことができたか？

(説明機会の増)

- ・今年度から「総合計画推進会議」へ分科会職員リーダーも出席するようになり、説明機会も増加した。市民と交わり、緊張感を持って総合計画の目標達成に向けてともに取り組んでいくという意識・意欲が高まり職員力の強化につながっている。

(発言機会の増)

- ・分科会での発言機会が増加したことから、リーダー以外の職員も緊張感を持って参画している。
- ・特に、日頃あまり市民と直接対応する機会の少ない部署の若手職員は、市民メンバーと丁々発止のやりとりを経験する積む好機会となり、市民の皆さんに育てられている。

③市民と行政はお互いに「まちづくりのパートナー」という意識が高まっているか？

(パートナー意識の高まり)

- ・市では、自分達の住むまちへの愛着を育むことを目的としたまちづくり活動を展開しており、職員も施策の中で市民からの助力を得ている。双方の立場から、パートナーとしての意識の高まりが見られる。
- ・市民会議には、まちづくりの現場に携わっている方々が集い、また、その動きに触発された方々が新たに加わってきている。市民と行政はまちの共同経営者であるという意識を持ったつながりを大切にしていきたい。
- ・市民会議の中では、話し合いやワークショップなどを通じて市民と行政の距離が縮まり、信頼関係が高まってきた。

④地域のまちづくりに積極的に関わる意識を持った市民が増えているか？

(市民会議参画者数の増加)

- ・平成21年12月に「描く市民会議」が発足して以来、市民会議に参画した市民の延べ人数は「158人」となっている。

<市民会議に参画した市民の人数>

		描く	H23創る	H24創る	OB・OG
描く	描くのみ(1年)	48人			48人
	描く・創る(2年)	11人	11人		11人
	描く・創る(3年)	32人	32人	32人	
創る	H23(1年)		7人		7人
	H23~H24(2年)		23人	23人	
	H24(1年)			37人	
参加者数(単年)		91人	73人	92人	66人
参加者数(延べ)		91人	121人	158人	

※OB・OGには物故者2人を含む

(まちづくり活動の土壌)

- ・まち協、映画「タカハマ物語」、B-1 などの市民を巻き込んだ事業の展開から、地域のことに関わりを持つ市民が増加してきている。市民会議もその一端である。今年度の市民会議には若い世代や女性の新規メンバーが増え、そこからまた新しい輪が生まれることが期待される。

⑤特ダネ！ ～印象的なエピソード、みんなに伝えたい！ etc.～

(地域で話題に)

- 自分の住む地域の行事や学校などで「広報見たよ」「のぼり旗かわいいね」と市民会議関連の話題が出て嬉しかった。

(これぞ真の協働!?)

- 学校教育について熱く語る中、いつしか市民メンバーたちが、ある職員メンバーの「子どもの教育お悩み相談室」の相談員に。市民も職員もお互いにプライベートのことまで話せる関係になった様子は本当の「協働」の第一歩という光景であった。

(サポーターに感謝!)

- 発表役は初めての市民メンバーのお2人、緊張の中、堂々と役目をはたされた。この背景には奥さんにアドバイスを受けたり、励ましてもらったりとご家庭でのバックアップがあったようだ。市民会議メンバーの背後には、早めに夕飯を準備してくださる奥さんや、子どもと留守番の旦那さん、仕事を引き受けて送り出してくれる職場の仲間の姿がある事を改めて思い、市民会議に間接的に協力してくださっている大勢の方々にも感謝!

(反省.....)

- まち協の理事会にうっかり大家族ジャンパーを着ていかなかった地域政策Gメンバー。分科会市民リーダーさんの厳しいご指摘を受けて猛反省。反対に、まちづくりシンポジウムで受付を手伝ってくださった自治推進分科会の皆さんは、こちらからお願いするまでもなく、全員しっかりジャンパー姿で集合。市民メンバーの皆さんの意識の高さに感動し、ますます反省の地域政策Gであった。

